



図書館だより



専門図書館協議会平成18年度総会・全国研究集会 参加報告

6月22日及び23日の両日に、江東区青海にある日本科学未来館において、専門図書館協議会の平成18年度の総会及び全国研究集会がありました。毎年、合同図書館からも参加しており、今年は館長、図書館委員、図書館事務局、嘱託が参加しました。私は、22日に行なわれた基調講演と23日の第1分科会に出席しました。

基調講演

基調講演を行なった千野信浩氏は、「図書館を使い倒す！」(新潮社)の著者であり、全国各地の様々な図書館を利用したことのある人で、今回の講演も「図書館を使い倒す！～取材の現場からの期待と注文」というものでした。講演では、図書館の使い方、図書館に対する疑問点・問題点などの指摘や専門図書館のあり方についての話がありました。その中では、今後の専門図書館の方向として、図書館の目的と存在理由を明確にすること、資料の体系的・網羅的・長期的な収集を行なうこと、開架であることの重要性などの指摘があり、これからの合同図書館の方向性を考える上で参考となる講演でした。前述した講演者の千野氏の著書には様々な図書館の情報が記載されており、読んでみると業務の役に立つと思います。

分科会

2日目は第1分科会から第5分科会に分かれ、以下のテーマで研究発表やパネルディスカッションが行なわれました。

- 第1分科会：「電子情報サービスの現状」「電子情報サービスの今後」
- 第2分科会：「今、求められるレファレンスサービスの視点」
- 第3分科会：「過去から未来へ繋ぐ“利用のための資料保存” —ライブラリアンによる基礎技術の導入

と実践」

- 第4分科会：「著作権問題はどのように動いているのか？ その現状と今後」
- 第5分科会：「新しい動きと挑戦」

出席した第1分科会の電子情報サービスの現状では、①科学技術振興機構が提供している科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)による電子ジャーナルの提供と電子アーカイブについて、②国立情報学研究所(NII)が行なっている日本の学術コンテンツを統合的に検索できるポータルサイト(GeNii：NII学術コンテンツ・ポータル)について、③国立国会図書館の電子情報サービスについて、それぞれ発表があり、その後、電子情報サービスの今後についてパネルディスカッションがありました。

ただ、私には内容が難しすぎて、ほとんど理解することはできず、国立国会図書館の電子情報サービスについて、検索のサイトが充実していることが分かったのが唯一の収穫でした。

J-STAGEでは、現在、科学・技術・医学といった分野に関する300誌のジャーナルと94種の予稿集が公開され、約20万件の論文が掲載されており、論文の抄録までは無料で閲覧できるそうです。また、GeNiiは論文情報、図書・雑誌の目録など4つのデータベースからなっており、一部を除いて無料で公開しているそうです。興味がある方は下記のサイトにアクセスしてみてください。

- 国立国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/>
- J-STAGE <http://www.jstage.jst.go.jp/ja>
- 電子アーカイブ
<http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/>
- GeNii <http://ge.nii.ac.jp/>

(合同図書館嘱託 鈴木 健二)